



しびき



CONTENTS

4	2020年出荷実績
3	オンライン役員会（ICDM・AOSD）開催報告
3	コンプライアンス勉強会
2	「最初に手にするドラム缶ハンドブック」発行
2	「危険物輸送用鋼製ペールの選定について」パンフレット発行
2	鋼製ペールのJIS改正
1	理事長年頭挨拶

ドラム缶工業会 那須七信理事長 年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

本年は、コロナ禍により賀詞交歓会を中止いたしました。行政、会員各社、関係団体の皆様と一堂に顔を合わせ、新年のご挨拶を交わすことはできませんが、会報を通じて年頭のご挨拶を申し上げます。

去年は、ただ一言、新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。新規感染者数は多くの都道府県で過去最高を更新し、首都圏等では緊急事態宣言が再発令されるなど、いまだ終息への道筋は見えません。2020年の出荷本数は、コロナ影響により鋼製新缶ドラム1,262万本（前年比▲7%）、鋼製ペール缶1,743万本（前年比▲7%）と減少いたしました。しかしながら、昨年10月頃から自動車産業が景気回復のけん引役となり、化学・石油・塗料その他の我々のお客さまにも徐々に需要の回復がみられる、薄日も差し込むような状況になってきました。



2021年については、新型コロナウイルス感染症の流行は一進一退を繰り返しながら、景気が緩やかに上向いていくことを期待しており、需要動向についても悲観的になる必要はないと考えています。会員各社が感染予防策実施のもと製品供給を継続し、当工業会として日本経済の回復を下支えしていきたいと思っております。一方で、米国のシェールガス由来のエチレン生産能力増強、国内化学産業における設備老朽化など、中長期的には懸念材料があります。会員各社が、お互い競争しながら、着実に体力を強化していくことが重要だと考えます。

このような環境において、当工業会としては、以下のような観点から会員各社に対するサポートを継続していこうと思っております。

第一に、鋼製ドラム缶・鋼製ペール缶の社会的認知度の向上です。去年は、「最初に手にするドラム缶ハンドブック」を発行いたしました。ドラム缶をお使いになるお客さまの採用者や異動者への導入教育用のガイドブックです。また、「危険物輸送用鋼製ペールの選定について」も発行いたしました。お客さまが危険物輸送にペール缶を選定する際に、法令やペール缶の規格・機能を容易に理解し選定していただけるよう編集した冊子です。災害時の支援物資としての社会的ニーズが高く、環境に優しい容器であるドラム缶・ペール缶の魅力や優位性を継続してPRしてまいります。

第二に、国際活動の活性化に努めてまいります。コロナ禍で国際的な人の往来は制限されていますが、リモート会議を活用し国際連携は継続してまいります。2022年韓国でのアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会（AOSD）国際会議の開催に向け滞りなく準備を進めてまいります。また、国際基準と国内基準との整合性向上に向けて、国際鋼製ドラム製造業者連合会（ICDM）との連携によりISOの改正に向けた活動を進めてまいります。

第三に、安全活動の推進です。災害事例の交換・分析により、会員各社の社員の皆様が安心して働ける職場作りを支援してまいります。

第四に、コンプライアンスに関する取り組みです。「健全な競争なくして健全な経済成長はない」という独占禁止法の原点に立ち返り、当工業会の活動を技術や広報活動に一層注力する体制を目指してまいります。

本年は丑年です。十二支の中で最も動きが緩慢で、歩みの遅い牛の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われます。十二支の2番目の干支であることから、子（ネズミ）年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされます。この丑年にあやかって、当工業会も結果だけを急がず、将来の発展に向け芽を慈しみ育てていく一年としていきたいと思っております。

最後になりましたが、本年が会員各社の皆様、ご家族、そして当工業会にとって実り多い一年となりますことを祈念し、私の年頭の挨拶といたします。

鋼製ペールのJISが25年ぶりに改正されました

JIS Z 1620は、鋼製ペールの種類、形状、容量、寸法、使用される材料、試験方法等について定めたもので、1967年に制定され、1972年、1977年、1985年及び1995年の改正を経て、今回の改正に至ったものです。

ドラム缶工業会ペール委員会は、一般財団法人日本規格協会の2019年度公募案件区分Bに応募し、JIS原案作成委員会を組織してJIS原案を作成し、2020年8月26日の日本産業標準調査会（JISC）第49回での審議の結果、同年11月20日に公示されました。

今回の改正は、1995年の改正以降に生じていた新技術の導入・技術の進展にともない主流となった安全対策製品や寸法表示、試験方法について追加、改正したものです。

改正の主なポイントはドラム缶工業会のサイトで確認できます。

http://www.jsda.gr.jp/news/pdf/201120_jis_z_1620.pdf

改正後のJIS Z 1620:2020の本体は以下の日本規格協会のサイトからお求めいただけます。

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=JIS+Z+1620%3A2020



「危険物輸送用鋼製ペールの選定について」のパンフレットを発行しました

ドラム缶工業会ペール委員会は、昨年12月に「危険物輸送用鋼製ペールの選定について」のパンフレットを発行しました。鋼製ペールに危険物を入れて、国内・国外に輸送（航空・海上・陸上）する場合、危険物の種類や輸送形態により、お客様の責務として、法令に対応した危険物容器の選定が必要です。この冊子では、JIS Z 1620「鋼製ペール」に該当する、容量が18Lならびに20Lおよびこれと同一径で容量のみが異なる危険物用のペールを対象とし、種類と特徴、認証型式と認証機関、危険物の等級の分類、危険物用ペールの選定の手順、性能試験とペールへの表示内容等を、写真を交えながら8ページにわたり分かりやすく解説しています。

ドラム缶工業会事務局ならびに会員各社にて無料で配布していますので是非ご活用下さい。ホームページにも掲載しています。



「最初に手にするドラム缶ハンドブック」を発行しました

ドラム缶工業会企画・統計委員会は昨年12月に「最初に手にするドラム缶ハンドブック」を発行しました。この冊子は会社としては日々ドラム缶をお取り扱いになるお客様でありながら、個人としては、部署異動や新規入社などによって初めてドラム缶に接することになった皆さまに、ドラム缶とはどういうものかを手早く理解していただくためのものです。

ドラム缶の種類、各部の名称や機能、製造プロセス、危険物を取り扱う時の注意事項、リユース・リサイクルに優れていること等を、図解やトピックスを交えながら16ページにわたり説明しています。

ドラム缶工業会事務局ならびに会員各社にて無料で配布していますので是非ご活用下さい。ホームページにも掲載しています。

また、実際のお取り扱いに際しては、当工業会より別途発行しております「鋼製ドラムの取扱上の注意」と併せてご活用下さい。



コンプライアンス勉強会

例年6月に開催しているコンプライアンス勉強会を、2020年度はさる10月29日に「カルテルの構造と予防の要諦」と題して日比谷総合法律事務所の多田弁護士を講師に迎え、鉄鋼会館で開催しました。コロナ禍の中ですが、コンプライアンスの遵守は会員企業ならびに工業会活動の大前提であり、今年度も継続して開催しました。緊張感を持つため今回も対面でソーシャルディスタンスを取っての開催としたこともあり、参加者は例年より若干減少しましたが会員企業から53名の出席がありました。

勉強会は、独占禁止法の目的と仕組みの全体像に始まり、カルテルに対する制裁（課徴金と刑事罰と民事賠償）、摘発の容易性と制裁の重さ、リニエンシー制度、2019年6月の法改正の要点が説明され、予防策、この一年の具体的な事件、さらに今回はコロナ禍での下請け取引に対する注意点に敷衍されました。

参加者からは、高度な内容ではあるが毎年繰り返し聴講することが重要、事例紹介は分かりやすかった、中小企業が単独では開催できないが社員教育の場として活用している、参加した社長が会社に戻ってから社員に説明した等の声が寄せられ、また次回はより多くの社員に聞かせたいのでリモートでの参加方法も検討して欲しいとのリクエストもありました。



カルテルの構造と予防の要諦

2020年10月29日
ドラム缶工業会 コンプライアンス勉強会

日比谷総合法律事務所
弁護士 多田 敏明

国際会議 (ICDM 役員会と AOSD 役員会) での各国のコロナ禍の状況

毎年行われている国際会議が2020年はコロナ禍のためオンラインで開催されました。

10月15日には欧州・米国との国際鋼製ドラム製造業者連合会 (ICDM) の役員会、11月5日にはアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会 (AOSD) の役員会が開催されました。

議題は何と言ってもコロナ禍の状況で各国のドラム缶製造がどのような状況に陥っているかに絞られました。

コロナ禍が始まった4月には、ICDM、AOSDともに、ドラム缶製造は人々の日常生活に欠かすことのできない基本的な産業 (エッセンシャル・ビジネス) であり、ロックダウンや外出自粛要請の中でも止めることのできない産業であるとの声明を発出し、特に米国ではトランプ大統領宛てに直接送付されました。中国、欧州、米国、インドでは主要都市のロックダウンが行われる中で、ドラム缶製造も一部を除き生産停止命令となった中国は3月から4月は前年比7割減、インドは4月には8割減まで落ち込みました。一方で、欧州各国、米国、日本、韓国、タイは操業停止には至らず、1割~2割の減少で止まりました。その後、中国は8月には前年比110%まで戻り、また韓国は消毒用アルコールの需要増で一時は前年を上回る生産となりました。インドも6月以降で生産停止が徐々に解除されましたが、労働者が戻らず、またサプライチェーンの混乱もあり、回復には時間がかかっています。

いずれの役員会でも、今後とも各国の工業会を通じて連携できることがあれば対応を図ることで一致しています。

新型コロナに関すること以外では、欧州では引き続き環境対応でのリサイクルの強化、米国はソーシャルネットワーク (SNS) を使ったユーザーへのPR活動が報告され、また日本からはISO 15750-3 (口金) の改正を提起していることを報告しました。

Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers

Statement from AOSD Regarding the COVID-19 Pandemic and Continuation of Essential Business Operations

The Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers (AOSD) members are manufacturers of new steel drums and will continue their operations during the COVID-19 pandemic as "Essential Businesses" that are critical to world's supply chain. ICDM members supply packaging that is used to transport and store goods that are part of the critical manufacturing sector supply chain. Our members and their suppliers manufacture packaging that, without which, essential items, such as food, healthcare products, energy and chemicals, could not continue to be provided to these sectors. Disruptions in the availability of these goods would cause significant hardships to consumers across the world who depend on these products that are vital to everyday life.

The Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers (AOSD) is an international association of nonprofit organizations representing Asia and Oceanic's premier manufacturers of steel drums. AOSD belongs to the International Confederation of Drum Manufacturers (ICDM) along with The Industrial Steel Drum Institute (ISDI) representing North America and The European Association of Steel Drum Manufacturers (SEPA).

ISDI has issued a separate statement that you can [view here](#).
SEFA has issued a statement that you can [view here](#).

Our drums ship for both hazardous and non-hazardous materials, providing the greatest balance of safety, strength, environmental responsibility and cost efficiency of any drums manufactured in the world. The aim, object and scope of the Association is to establish an international forum to promote the safe and efficient manufacturing and use of new steel drums, to encourage environmentally sound practices in the management of the packaging life cycle, and to promote the image and interests of the steel drum and pail business.

Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers
3-2-10 Nihombashi Kayabacho, Chuo-Ku, Tokyo 103-0025, JAPAN
Tel: +81 3 3669-5141, Email: info@osd.jp

コロナ禍で発したドラム缶製造はエッセンシャル・ビジネスであることのメッセージ



ICDM オンライン役員会



AOSD オンライン役員会

2020年(1月~12月)出荷実績

2020年の200L缶の出荷は、前年に比べ7.3%減、988千本減の12,618千本となりました。

用途別では、前年に比べ化学向け(6.5%減、682千本減)、石油向け(10.2%減、192千本減)、塗料向け(11.4%減、84千本減)、食料品向け(5.8%減、13千本減)、その他向け(8.8%減、17千本減)のすべてで減少しました。

ペール缶は前年比7.1%減の17,434千本、中小型缶は前年比11.1%減の448千本となりました。

2020年缶種別・用途別出荷実績

缶種	2020年実績						
	本数 (千本)	前年比 (%)	用途別〔本数(千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,618	92.7	1,686 (89.8)	9,894 (93.5)	657 (88.6)	205 (94.2)	175 (91.2)
ペール缶	17,434	92.9	9,642 (95.4)	6,818 (89.8)	456 (89.4)	0	518 (91.2)
中小型缶	448	88.9	4	434	1	0	9
亜鉛鉄板缶	355	84.6	2	345	3	3	3
ステンレス缶	28	84.9	0	28	0	0	0
合計	30,882	—	11,332	17,519	1,117	208	706
※前年比(%)	—	—	91.3	93.2	88.4	94.2	89.9
※構成比(%)	—	—	16.9	75.0	5.0	1.5	1.6

(注) 1.用途別200L缶、ペール缶の下限()は前年比。 2.※前年比ならびに、※構成比は、トン数ベース。
3.亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。 4.総本数は、30,882,184本。表上数値は四捨五入による差異がある。

(単位：千本)

缶種	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
200L缶	11,731	14,311	14,041	13,206	13,165	13,717	13,579	13,587	14,101	14,134	13,606	12,618
ペール缶	18,365	20,377	19,744	19,174	19,286	19,188	18,935	19,177	19,681	19,528	18,776	17,434
中小型缶	637	776	737	626	539	484	479	420	416	493	504	448
亜鉛鉄板缶	384	381	389	373	398	405	356	366	350	386	419	355
ステンレス缶	33	34	38	35	33	37	30	40	34	39	33	28
合計	31,150	35,879	34,949	33,413	33,421	33,831	33,379	33,590	34,583	34,580	33,337	30,882

編集後記

ドラム缶工業会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続き各種行事を自粛、延期しています。その影響もあり今号も4ページに縮小しての発行となりました。また事務局も継続して感染予防措置を講じた業務体制としています。会員企業ならびに関係者の皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会員

《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株)ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株)東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株)長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株)前田製作所
- (株)山本製作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)

《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株)大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株)城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株)水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141
FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.82(2021年1月22日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 事務局長 坂元 信之

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせ下さい。
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。